



DAIWA
GROUP

Monitoring the Future

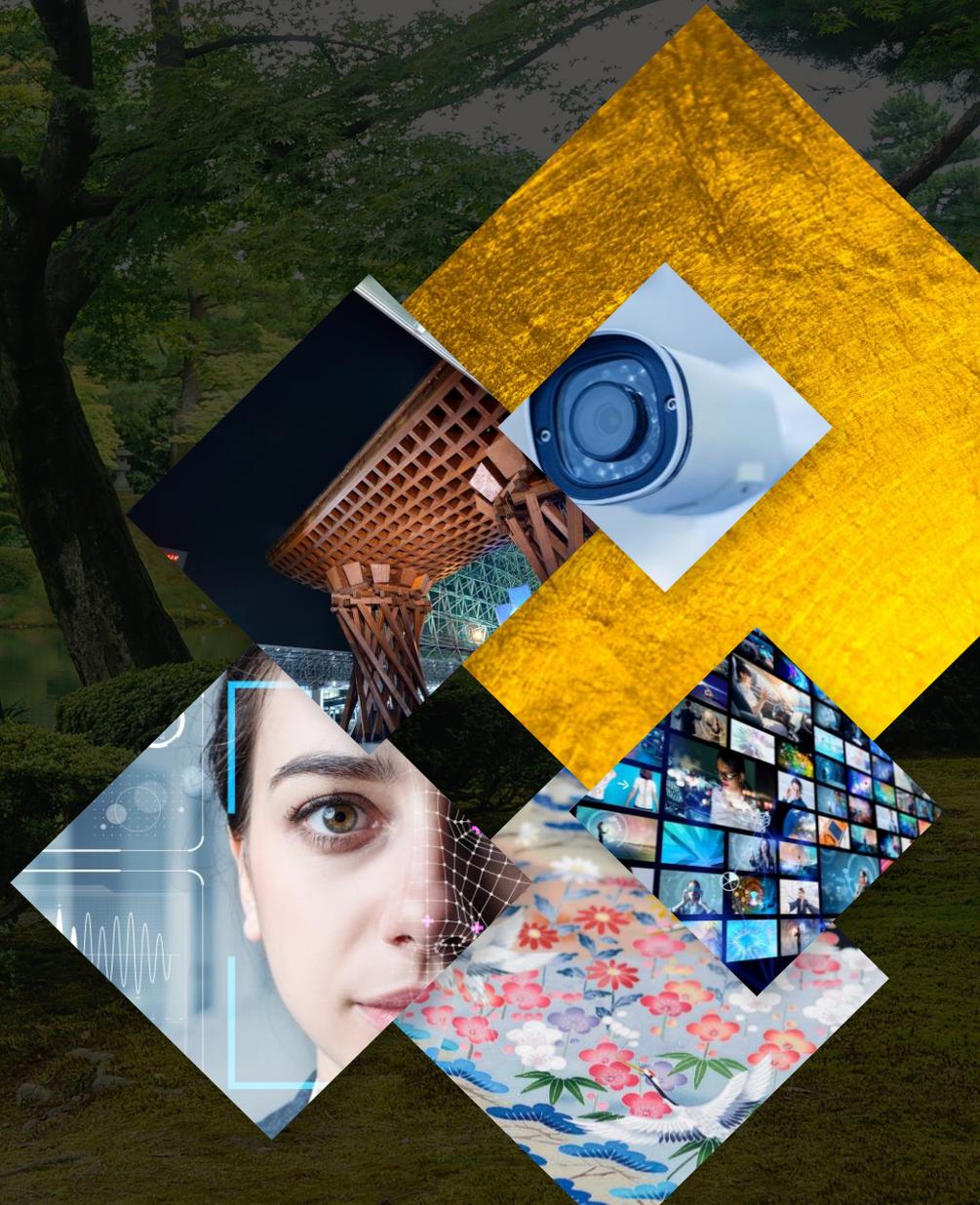
未来の街に、さらなる安心・安全を

2023年3月期

決算説明資料

ダイワ通信株式会社 (東証スタンダード: 7116)

2023年5月19日



INDEX

- 01 — ダイワ通信とは
- 02 — 2023年3月期決算概要
- 03 — 2024年3月期業績予想
- 04 — 経営方針と事業戦略

表記について

- 端数の処理について、単位未満を切捨て、パーセントは小数点第一位未満を切捨てとしております
- 本資料中では、構成比の数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります

1 | ダイワ通信とは

Who We Are

Monitoring the Future

— 人を想う、心のこもったSafe Cityの実現を目指して

Security

Safety

セキュリティ
事業

モバイル
事業

Convenience



会社概要



社名 ダイワ通信株式会社

所在地 石川県金沢市入江二丁目180番地

創業 1996年4月（設立 2016年3月）

資本金 100百万円（2023年3月31日時点）

許認可、免許及び登録等

【古物商】

2016年9月 第5111090013113号

【建設業許可 石川県知事】

2021年8月 電気通信工事業（般-3）第18428号

2021年8月 電気工事業（般-3）第18428号

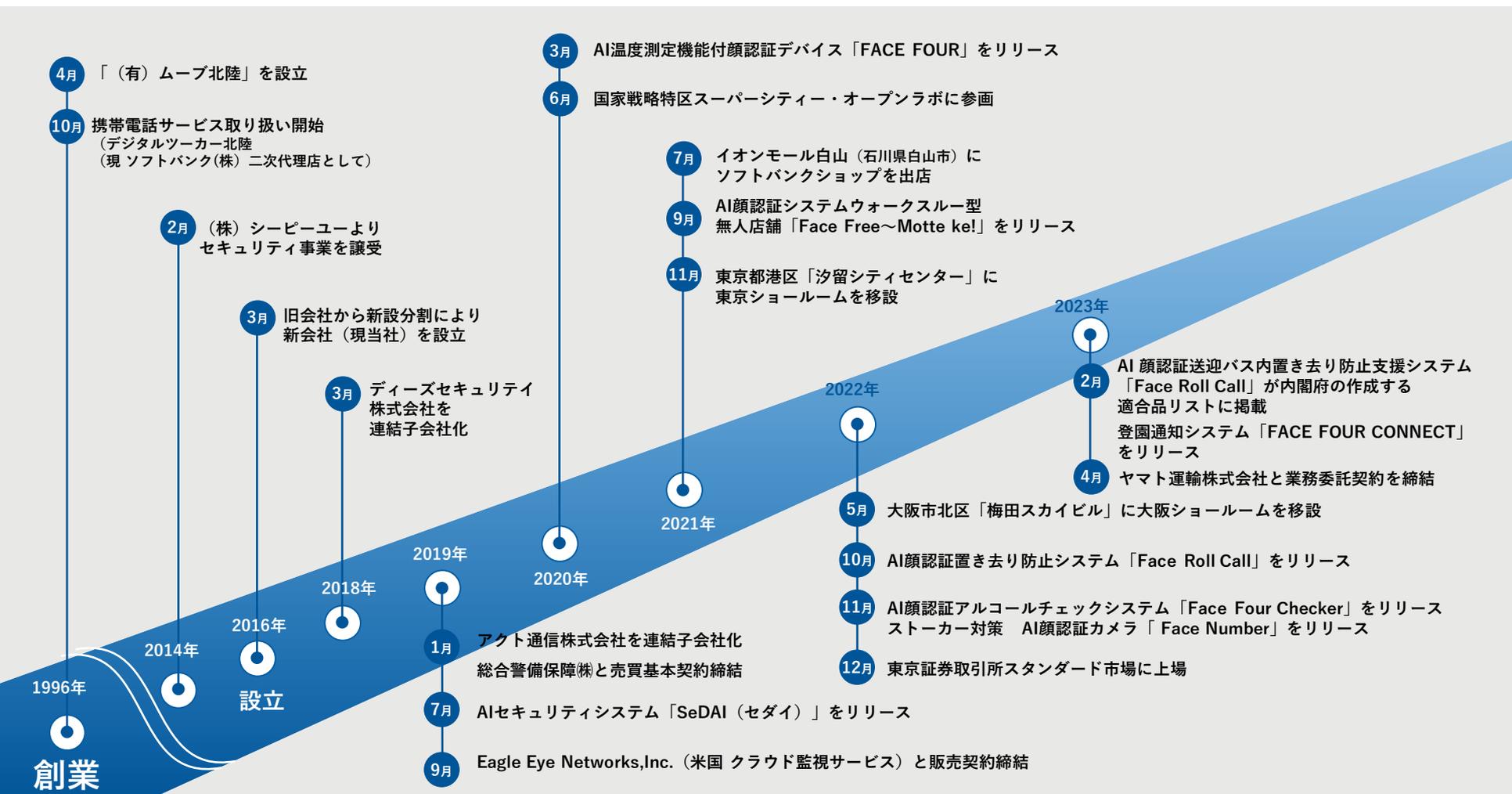
役員構成	代表取締役社長	岩本 秀成
	専務取締役	隈田 佳孝
	常務取締役	前田 憲司
	取締役	多賀 勝用
	社外取締役	米沢 寛
	社外取締役	木村 基之
	社外監査役	福村 徹（※）
顧問	社外監査役	宮川 昌江
	社外監査役	武部 勝
	アドバイザー	竹中 平蔵
売上高	4,818百万円（2023年3月期）	
従業員数	114名（2023年3月31日現在）	
事業内容	セキュリティ事業部	<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラの開発／販売／施工／保守 AI顔認証温度検知システムの開発／販売 AIロボットの企画／開発／販売／保守 入退室管理システムの開発／販売 機械警備システムの販売 通信・OA機器の販売 ネットワーク設計／構築／LAN工事 ITソリューション
	モバイル事業部	<ul style="list-style-type: none"> 移動体通信機器の販売（各種スマートフォン） 各種周辺機器の販売（アクセサリ類）
営業拠点	オフィス	東京、大阪、名古屋、北陸、札幌、仙台、新潟、広島、福岡 計9拠点

※福村氏は6月21日開催の第8期定時株主総会後に退任し、岡本誠氏が新たに就任予定

1 ダイワ通信とは

成長の軌跡

モバイル事業をベースに、セキュリティ事業に領域拡大



1 ダイワ通信とは

2つの事業

その他

- 不動産賃貸等

セキュリティ事業



- 防犯カメラシステムの提案をワンストップ体制で実施
- 全国に札幌から福岡まで9つの拠点を構え、上場企業（大手事務機器メーカー、大手警備会社など）を中心に展開

54%

45%

連結業績
2023年3月期
売上高
4,818百万円

モバイル事業



- SoftBankの一次代理店として10店舗運営
- 石川県、富山県のイオンモールなどの大型商業施設を中心に展開

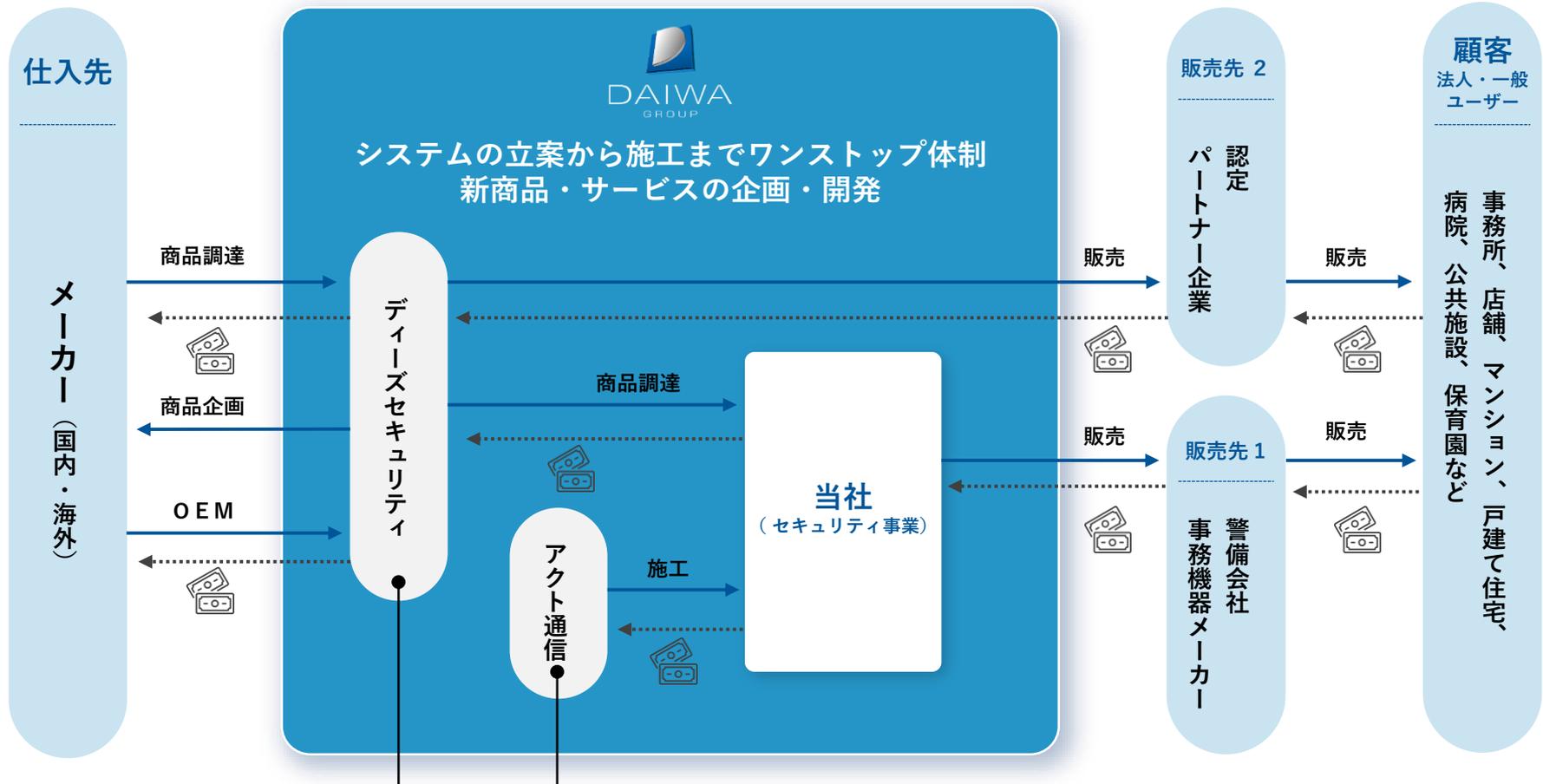
65%

33%

営業利益
394百万円

1 ダイワ通信とは

セキュリティ事業 ビジネスモデル



ディーズセキュリティ株式会社 (連結子会社)

- ・ 監視カメラ及びその周辺機器の商品調達・商品企画
- ・ 認定パートナー制度の運営と管理

アクト通信株式会社 (連結子会社)

- ・ グループ内のセキュリティ事業に係る監視カメラの据付工事の対応

 = お金の流れ

1 ダイワ通信とは

セキュリティ事業 事業概要

防犯カメラ

国内及び海外のメーカーから防犯カメラを仕入れ、販売。
オリジナルブランド「ディーズセキュリティ」や防犯カメラを用いたセキュリティシステムも開発・販売



オリジナルブランド
「ディーズセキュリティ」



+

取扱いブランド数 **18**ブランド

AI・IoTシステム

カメラで認識される画像とAIによる解析技術を融合した商品企画。AI顔認証システム等の商品開発・販売等も行う



AIロボット



無人AIスマートストア



AI顔認証システム

1 ダイワ通信とは

セキュリティ事業 認定パートナー制度

全国に認定パートナーを設定し、幅広い分野の顧客をターゲットとして販売

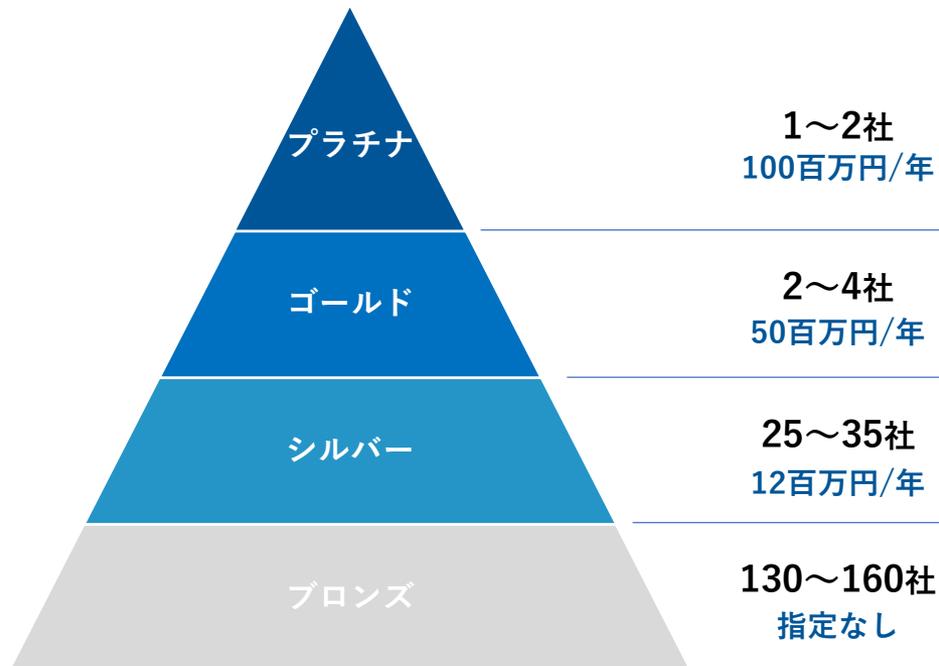
認定パートナー数

196社

工務店、警備会社、事務機器卸など

- ・ パートナーは年間取引金額をコミット（ランクに応じて金額変動）
- ・ ランク毎にそれぞれ販売支援を実施し、パートナー企業と協働で顧客を確保

認定パートナーのランク



販売支援（例）

営業活動支援
デモ機の特別
価格販売・貸出制度

専任営業担当者
支援

マーケティング
ツール支援

技術支援、教育
(アカデミー) 支援 等

1 ダイワ通信とは

セキュリティ事業 コーディネート力

マルチベンダー体制による商品力と“つなぐ”ノウハウに裏打ちされた提案力



コーディネート力の源泉

当社は防犯カメラのレコーダーメーカーとして長年、レコーダーと様々なメーカーの防犯カメラを接続するノウハウや技術を蓄積（旧シービーユーからの知見）。この“つなぐ”力を様々な顧客ニーズに対する柔軟な提案に応用し、他社との差別化に



様々な現場に柔軟に対応できる提案に応用

工事現場遠隔監視システム

店舗サービス遠隔管理システム

ライブ手術中継システム

1 ダイワ通信とは

モバイル事業 ビジネスモデル



ソフトバンクの一次代理店として、北陸地区に限定した店舗「ソフトバンクショップ」を展開。集客力に富んだイオンなどのショッピングモールなど石川県、富山県で10店舗を運営

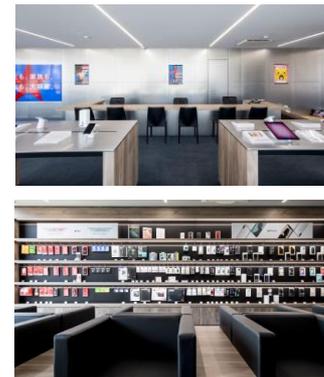
- ・ イオンモールかほく
- ・ 金沢おこばた
- ・ 入江
- ・ イオンモール白山
- ・ イオンモール高岡
- ・ ラスパ白山
- ・ アピタ松任
- ・ プラント3川北
- ・ 笠舞
- ・ イータウン射水

SoftBank

一般ユーザーに対し、携帯電話端末ならびにアクセサリを販売し、またソフトバンクのサービスを提供



ソフトバンク イオンモール高岡 (Y!mobile取扱店)



ソフトバンク 入江 (Y!mobile取扱店)

1 ダイワ通信とは

モバイル事業 安定収益を生み出すショップ運営と人財育成

効率的な集客を
目指した店舗配置

国道8号線を軸に
店舗配置を実施



ショッピングモールの
集客力を活用した
イベント



高品質なサービスを
目指したキャリア
資格保有者※の育成

※ソフトバンク資格認定制度

29名 が資格取得
34名中 (2023年3月時点)



2

2023年3月期決算概要

業績推移

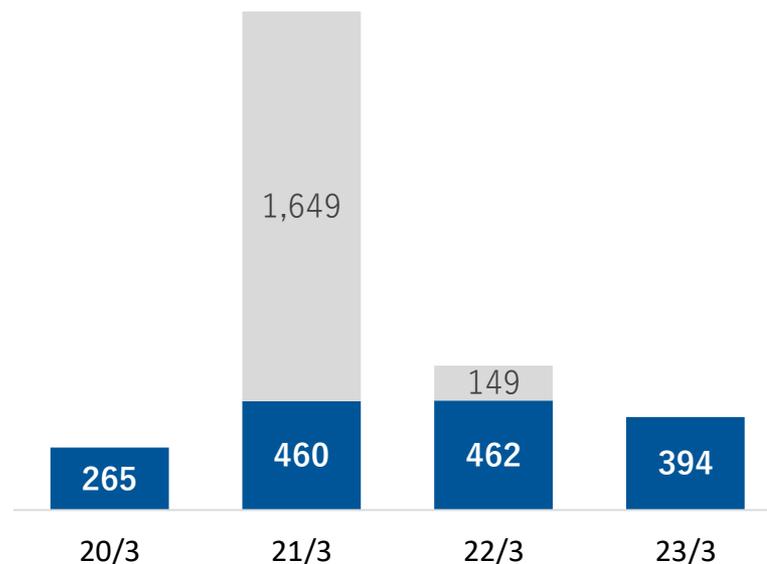
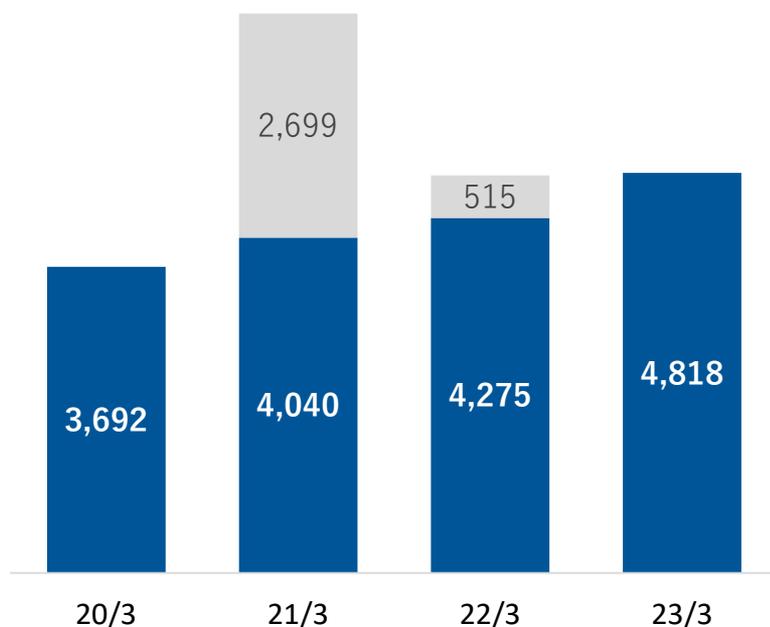
- 売上高（特需除く）が大きく増加し順調に推移
- 営業利益は、新商品開発等の戦略投資および人材獲得のための人材投資を先行実施した結果、減益

連結売上高

連結営業利益

■ セキュリティ+モバイル（特需除く） ■ 特需

■ セキュリティ+モバイル（特需除く） ■ 特需



※特需：温度測定のみを目的とした温度測定機能付顔認証デバイスの販売分等

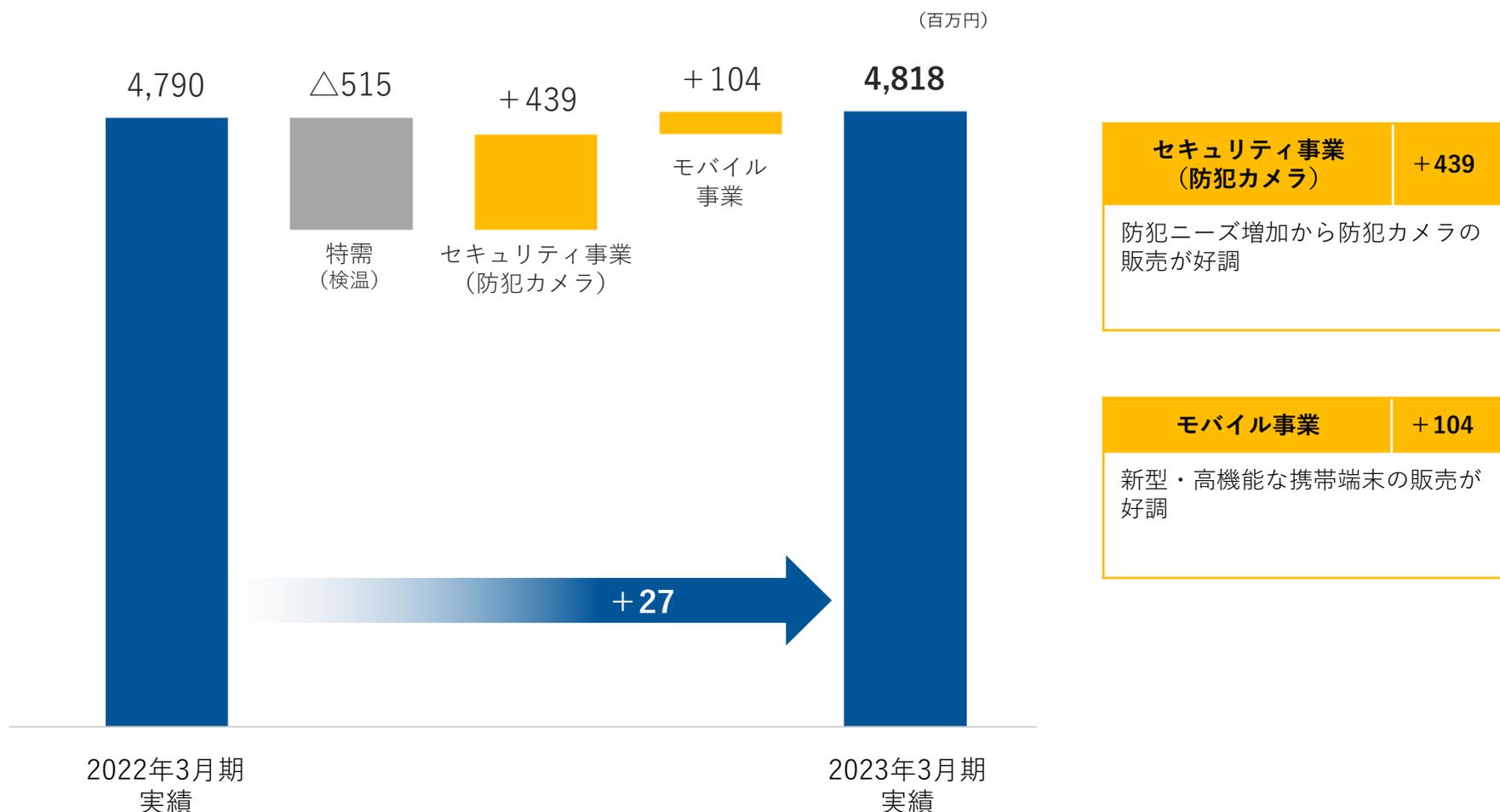
連結業績概要

- 売上高（特需除く）が大きく増加し、増減額で特需を上回る増収
- 営業利益（特需除く）が増加したが、新製品等への成長投資の結果、減益

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	4,790	4,818	+27	+0.6%
（うち特需分）	(515)	—	△515	—
売上高（特需除く）	4,275	4,818	+542	+12.7%
営業利益	611	394	△217	△35.6%
（うち特需分）	(149)	—	△149	—
営業利益率	12.8%	8.2%	—	△4.6p
営業利益（特需除く）	462	394	△67	△14.7%
営業利益率（特需除く）	10.8%	8.2%	—	△2.7p
経常利益	610	370	△239	△39.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	394	242	△151	△38.4%
1株当たり 当期純利益	145.73	89.70	—	—

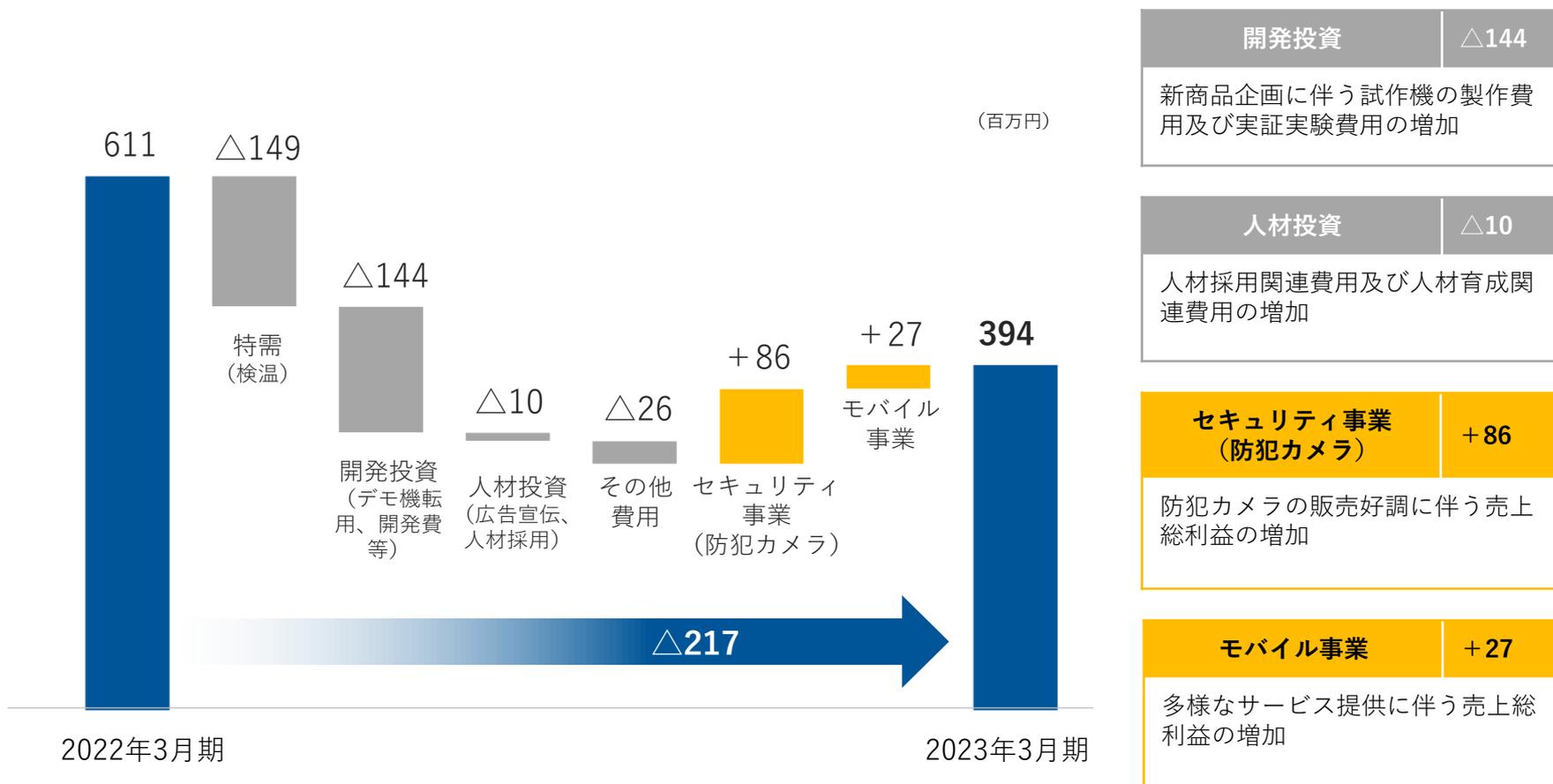
売上高 増減要因分析

モバイル事業、セキュリティ事業（防犯カメラ）は好調に推移



営業利益 増減要因分析

- モバイル事業、セキュリティ事業（防犯カメラ）は好調に推移
- 今期新製品の開発投資を先行して実施。また、人材獲得のための人材投資を先行して実施



セグメント別業績

- セキュリティ事業は、防犯カメラが好調に推移したが、新製品等の成長投資の結果、営業利益は減益
- モバイル事業は、イオンなどの商業施設でのイベントを強化し、新規契約数、1契約当りの利益が増加した結果、増収増益

単位：百万円	売上高				営業利益			
	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比		2022年 3月期	2023年 3月期	前期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
セキュリティ事業 (防犯カメラ)	2,182	2,622	+439	+20.1%	477	419	△58	△12.2%
セキュリティ事業 (特需)	515	—	△515	—	149	—	△149	—
モバイル事業	2,078	2,182	+104	+5.0%	213	214	+1	+0.6%
その他事業	14	14	△0	△2.9%	16	16	△0	△1.9%
調整額	—	—	—	—	△245	△255	△10	—
合計	4,790	4,818	+27	+0.6%	611	394	△217	△35.6%

貸借対照表の状況

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期	前期比	主な増減要因
流動資産	2,058	2,200	+ 142	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現預金 + 367 ・ 売上債権 + 252 ・ 商品△127 ・ 未収還付法人税等△269
固定資産	1,286	1,549	+ 263	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建設仮勘定 + 269 ・ リース資産△16 ・ 長期繰延税金資産 + 30
資産合計	3,344	3,750	+ 406	
流動負債	500	746	+ 245	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕入債務 + 137 ・ 短期借入金△85 ・ 未払法人税等 + 104 ・ リース債務△13
固定負債	659	577	△81	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期借入金△71 ・ リース債務△8
負債合計	1,160	1,323	+ 163	
純資産	2,184	2,427	+ 242	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利益剰余金 + 242
負債・純資産合計	3,344	3,750	+ 406	
自己資本比率	65.3%	64.7%	△0.6p	

連結キャッシュ・フローの状況

今期、フリーキャッシュフロー5億円を創出。

今期に引き続き、来期以降も開発へ積極投資を行っていく。

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	△498	+ 810	+ 1,309
投資活動によるキャッシュ・フロー	△288	△256	+ 31
フリー・キャッシュ・フロー	△786	+ 554	+ 1,341
財務活動によるキャッシュ・フロー	+ 102	△186	△288
現金及び現金同等物の増減額	△684	+ 367	+ 1,052
現金及び現金同等物の期首残高	1,081	396	△684
現金及び現金同等物の期末残高	396	764	+ 367

3

2024年3月期業績予想

当社事業環境の見通し

— セキュリティ事業 (B to B)



防犯意識の高まりや省人化など背景に
引き続きニーズが拡大

- 新型コロナウイルスの感染症法上の位置付け変更に伴い、設備投資意欲の向上
- 迷惑行為、事件のニュースから防犯意識の高まりから防犯カメラの需要拡大
- AIを活用した防犯カメラによる画像解析ソリューションの展開が加速化
- 原材料価格の高騰、エネルギー価格の高騰、円安による原価の上昇

— モバイル事業 (B to C)



巣ごもり需要の落ち着きから、
ユーザーの嗜好に対する消費スタイルの変化

- 巣ごもり需要が落ち着き、新型や高機能なスマホなどの嗜好品の「モノ消費」から、旅行や趣味等への「コト消費」に消費スタイルがシフト
- 5G（第5世代移動通信システム）の浸透により、「いつでもどこでも」大容量通信ニーズの増加
- コールセンターやオンラインショップの使い難さにより、ユーザーはリアル店舗へ回帰

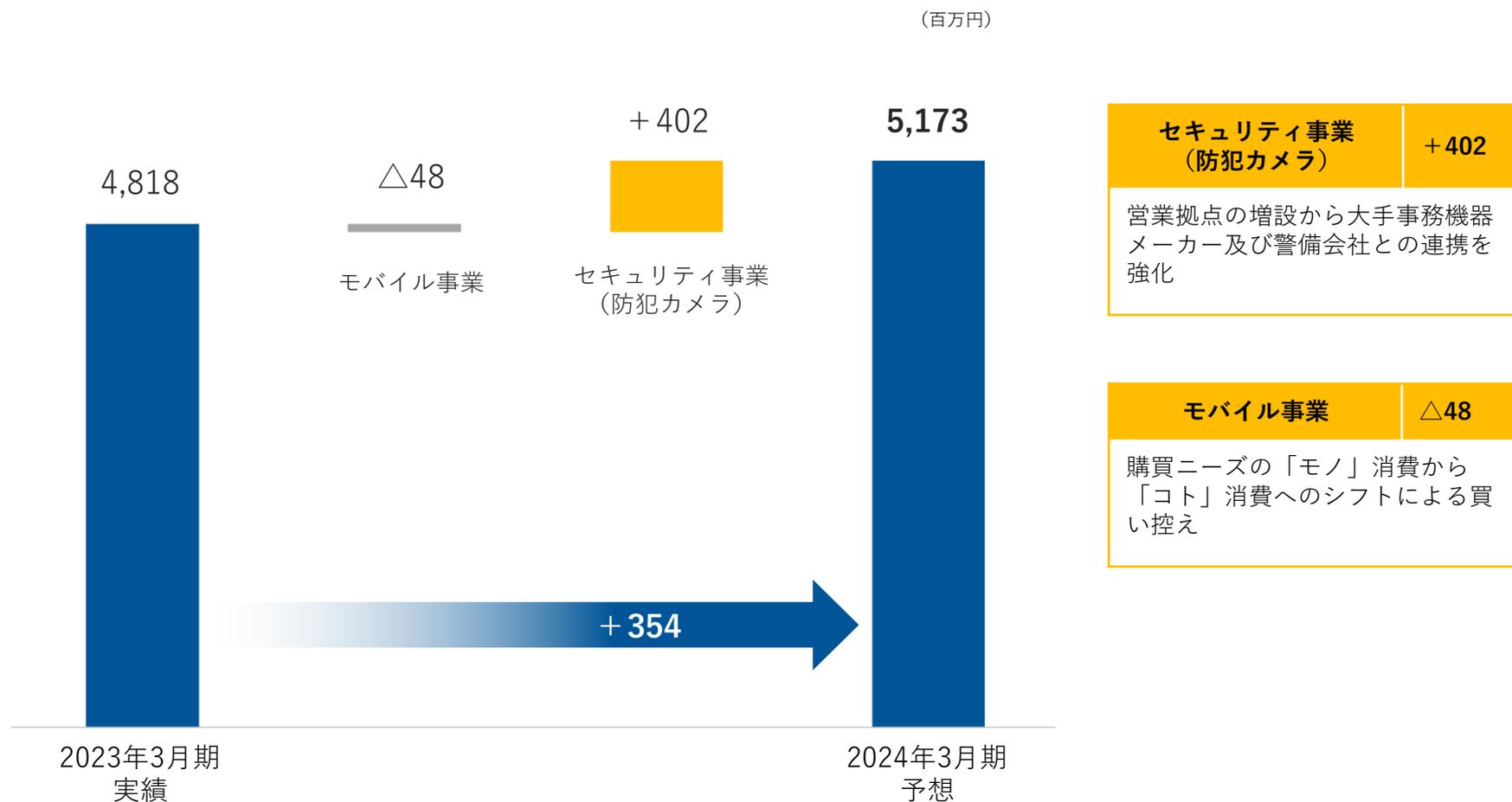
2024年3月期業績予想

来期は成長ドライバーである人材への投資（増員、ベースUP、教育等）および新製品等の開発投資を積極的に実施し、中長期的な成長のための土台作りの時期と捉える

単位：百万円	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	4,818	5,173	+ 354	+ 7.4%
営業利益	394	455	+ 61	+ 15.5%
営業利益率	8.2%	8.8%	—	+ 0.6P
経常利益	370	447	+ 76	+ 20.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	242	292	+ 49	+ 20.3%
1株当たり 当期純利益	89.70	107.91	—	—

売上高 増減予想

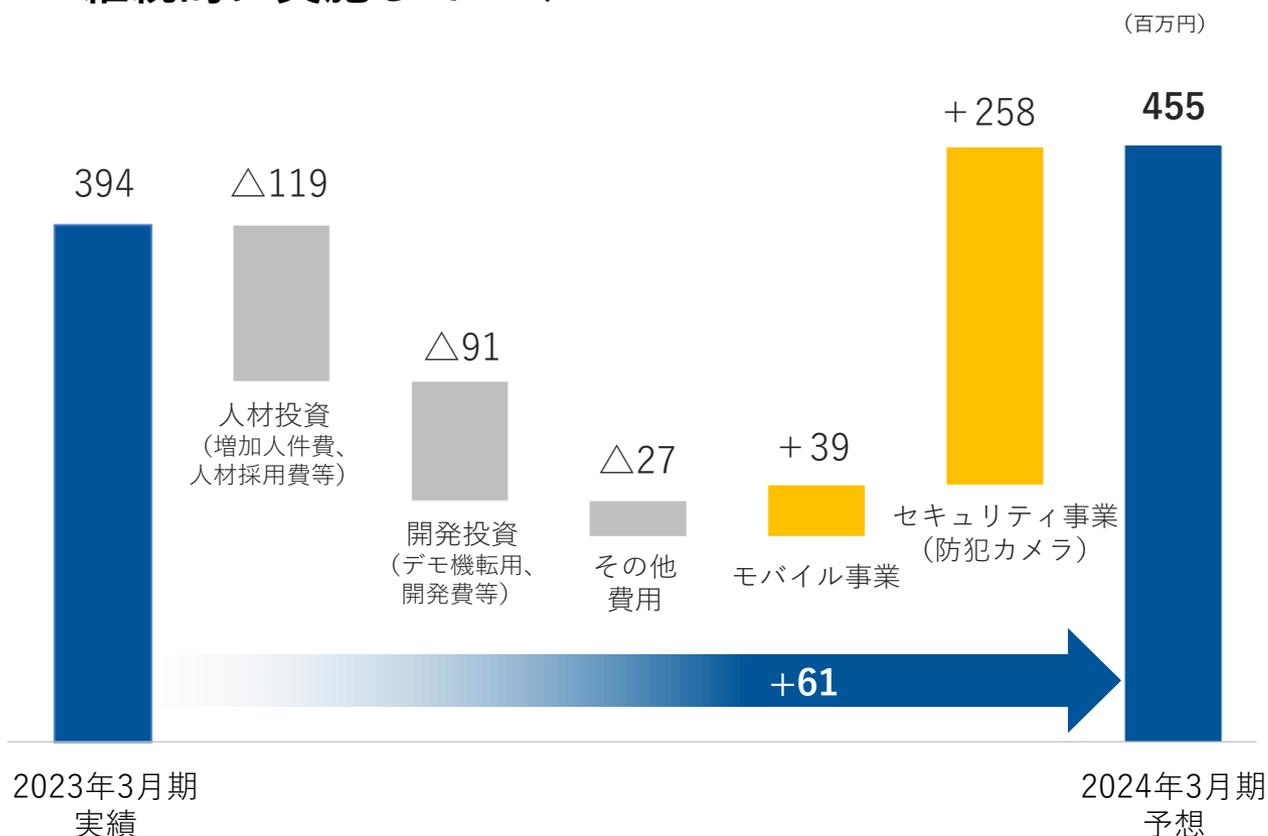
成長市場であるセキュリティ事業において、人材獲得および拠点拡大を図り、シェア拡大を図る



3 2024年3月期業績予想

営業利益 増減予想

- 成長ドライバーである人への投資を積極的に実施し、増員や営業・接客スキル向上による売上粗利の増加を図る
- Safe Cityの実現を目指し、新製品の開発を進め、社会課題解決の製品提案を継続的に実施していく



人材投資	△119
増員、ベースアップ等による増加人件費や人材採用費、教育訓練費など	

開発投資	△91
新製品の開発費用、デモ機転用、外部委託費用など	

セキュリティ事業 (防犯カメラ)	+258
人員増・拠点増に伴うエリア拡大を図り、売上総利益の増加を予想	

モバイル事業	+39
従業員研修のDX化、接客時間の短縮、店舗管理自動化など投資を実施し、安定収益基盤の強化を図る	

3 2024年3月期業績予想

セグメント別業績予想

セキュリティ
事業

営業人員の増強を図り、大手事務機メーカーや警備会社との連携強化による増収増益を予想

モバイル事業

体制強化と接客スキルの向上により多様なニーズに対応し、安定収益の確保を目指す

単位：百万円	売上高				営業利益			
	2023年 3月期	2024年 3月期	前期比		2023年 3月期	2024年 3月期	前期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
セキュリティ事業	2,622	3,025	+402	+15.4%	419	518	+98	+23.5%
モバイル事業	2,182	2,133	△48	△2.2%	214	204	△9	△4.6%
その他事業	14	14	+0	+0.0%	16	16	+0	+0.0%
調整額	—	—	—	—	△255	△283	△27	—
合計	4,818	5,173	+354	+7.4%	394	455	+61	+15.5%

4 | 経営方針と事業戦略

中長期的な当社事業環境の見通し

予想される機会とリスク

機会



防犯需要の拡大



防犯カメラによる
画像解析ソリューションの
需要拡大



防犯カメラを活用した用途の拡大
・遠隔臨場
・遠隔管理

リスク



高コスト環境の継続
(エネルギー、原料、輸送、人件費等)



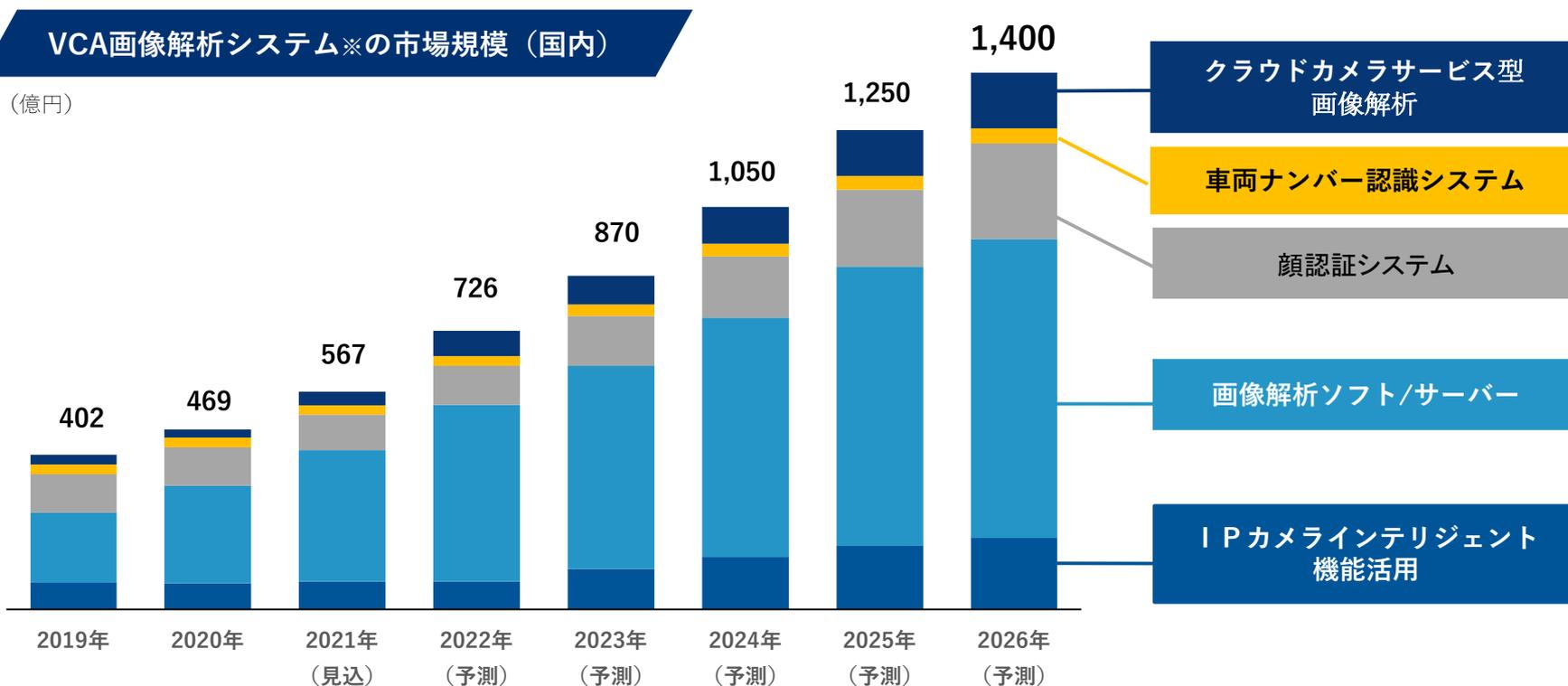
為替相場の影響



不安定な世界情勢による
サプライチェーンの機能不全

セキュリティ市場規模

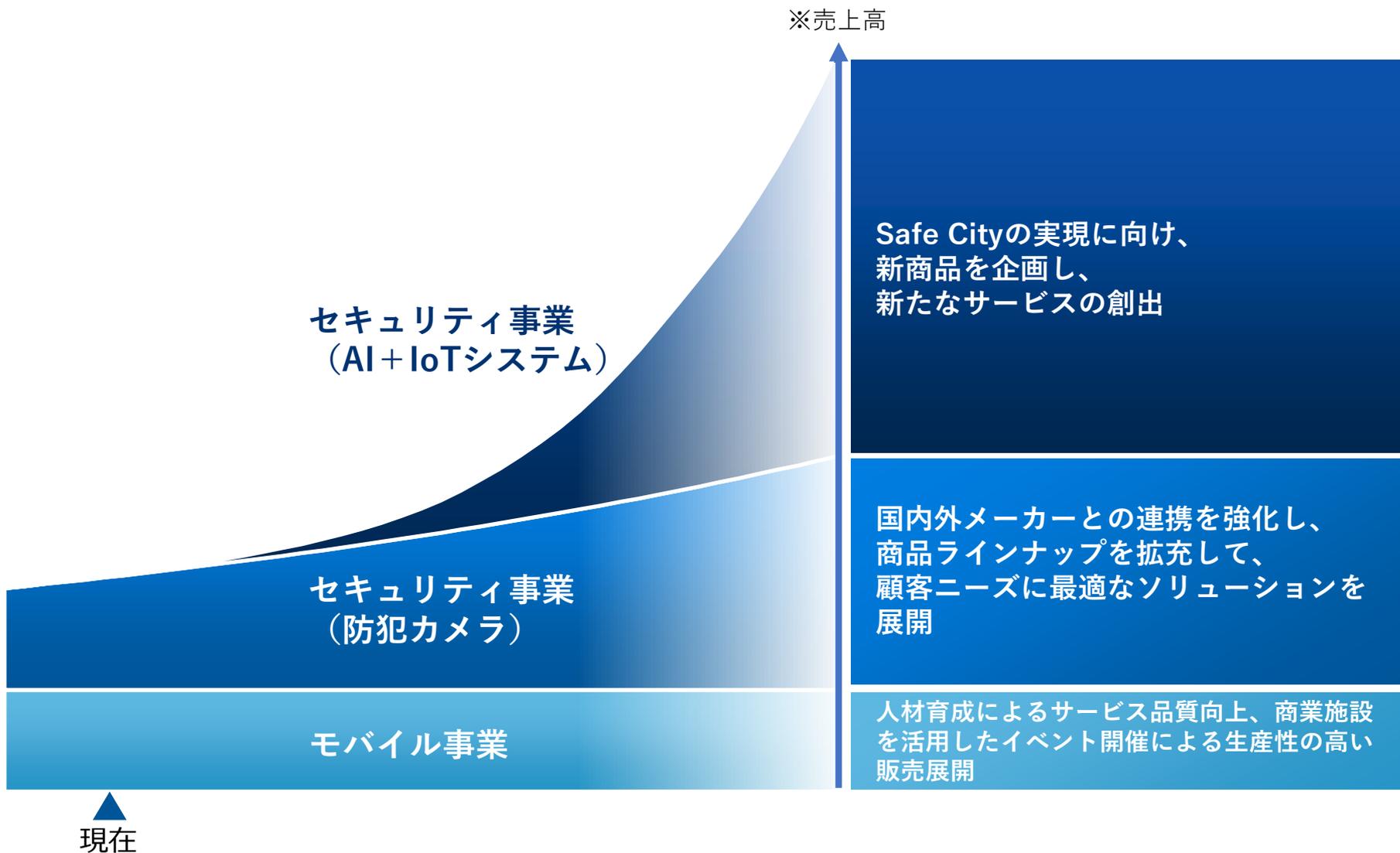
AIを活用した画像解析ソリューションのさらなる展開や、業務の省人化及び無人化に向けた監視カメラの利用が加速



※VCA（Video Content Analysis）画像解析システムとは、顔認証、行動検知、物体識別などAIを活用した画像解析ソリューションを示す

出典：株式会社矢野経済研究所「2021年度版ネットワークカメラ/VCA画像解析システム市場」

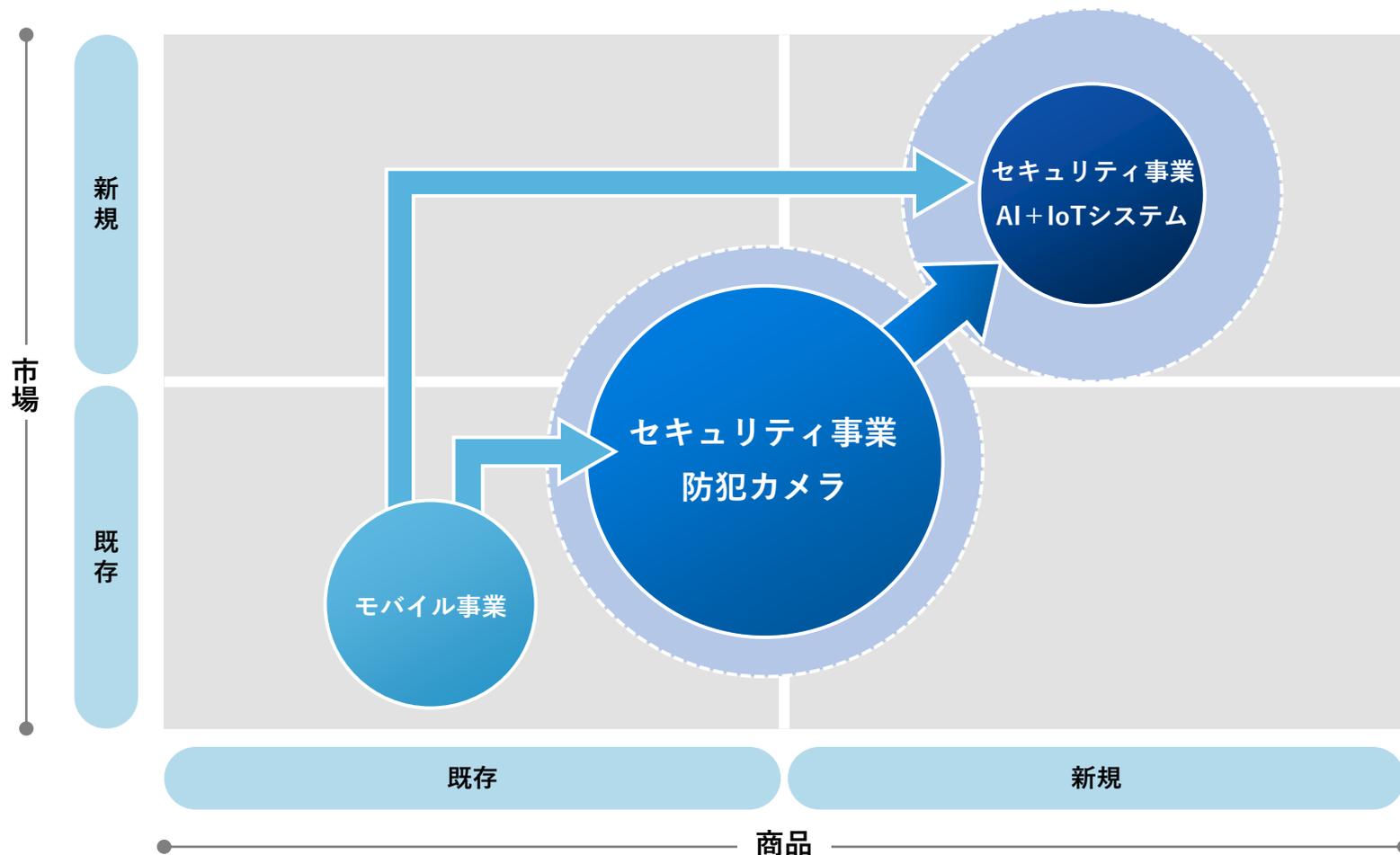
今後の成長イメージ



事業ポートフォリオ

モバイル事業の安定収益を成長性の高いセキュリティ事業の拡大に充てん

※円の大きさは23.3期の収益規模。点線の円は将来イメージ



成長戦略サマリー

戦略①

営業拠点の増設と人員の増員

戦略②

ソリューションの提供強化

戦略③

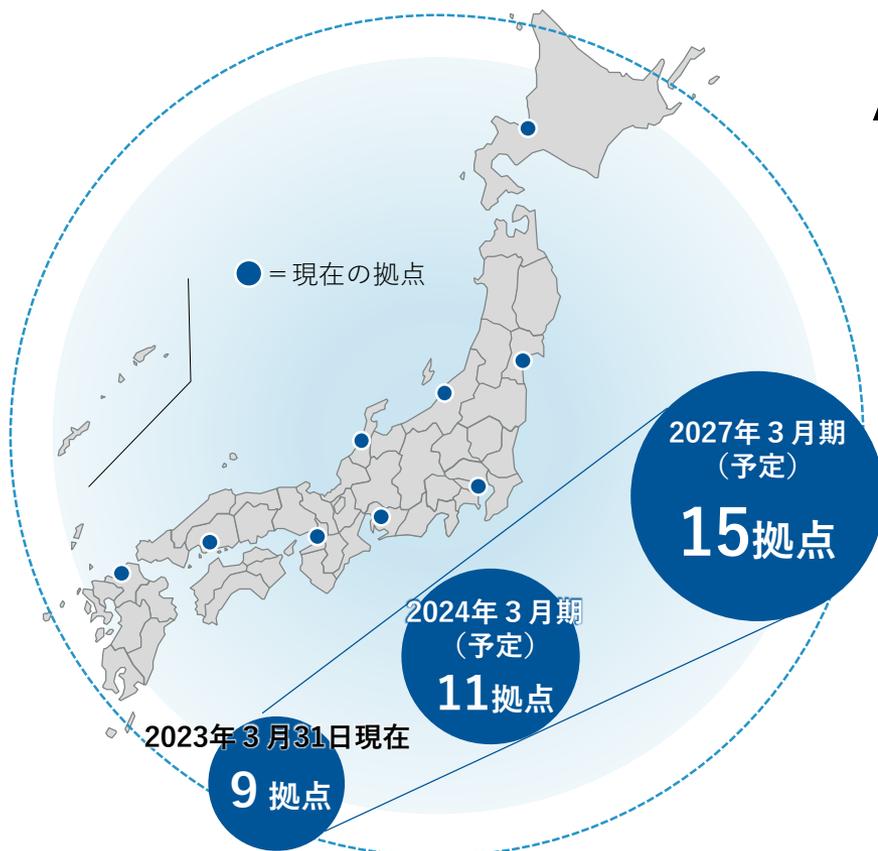
新領域への展開
(デベロッパー等への営業展開)

戦略④

商品倉庫兼実験・研究施設の建設

戦略① 営業拠点の増設と人員の増員

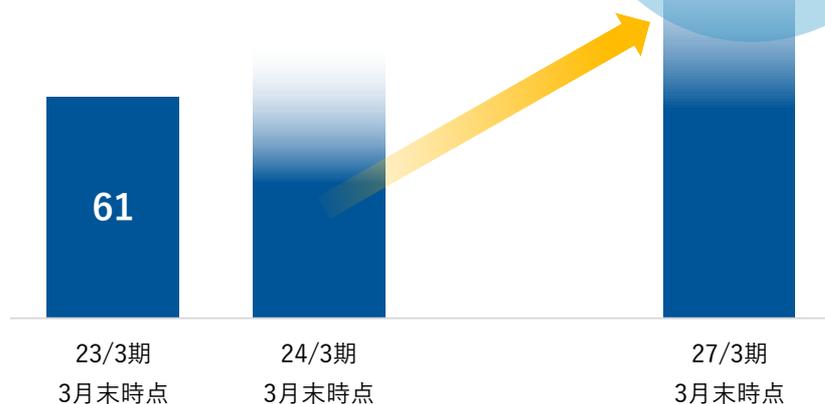
- 大手事務機器メーカー及び警備会社との連携強化を図るため、営業拠点を増設



- 成長ドライバーである営業人員とテクニカル人員への投資を積極的に実施

営業人員 + テクニカル人員の増員イメージ

24/3期に採用を強化し、25/3期下期以降に本格貢献できるよう教育を実施

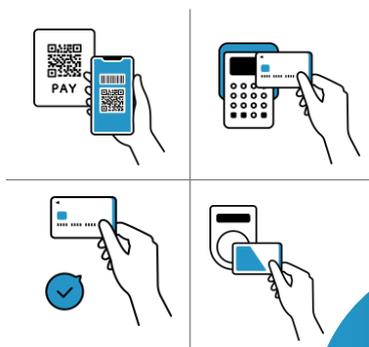


人材採用	人材の育成を通じた行動環境を整備
<ul style="list-style-type: none"> ● 新卒者の採用 ● キャリア採用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理職・リーダーの研修実施 ● 業務の改善や効率の向上を目的としたシステム化

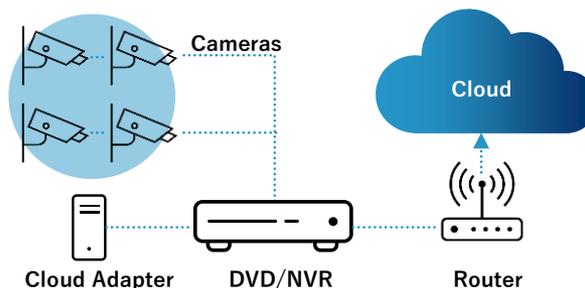
戦略② ソリューションの提供強化

省人化、非接触・非対面、AI画像解析をテーマに、社会課題・市場ニーズを的確に捉えた新たなセキュリティシステムの商品企画・開発を強化

無人AIスマートストア／ニーズへの対応



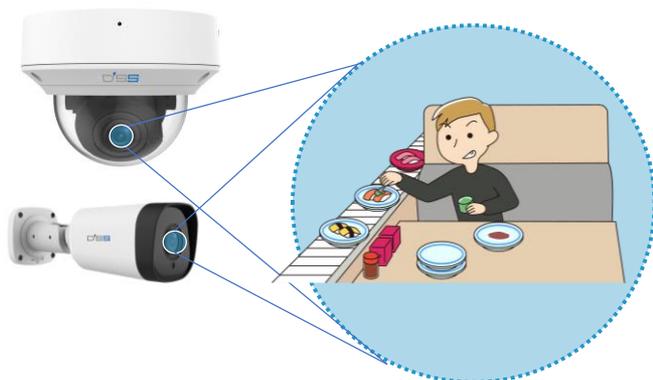
防犯カメラシステム／クラウドへの対応



※統合Windows認証

AI/IoT
システム

迷惑行為検知AIシステム／商品化



自動化システム／省人化への対応

倉庫業務

清掃業務

警備業務

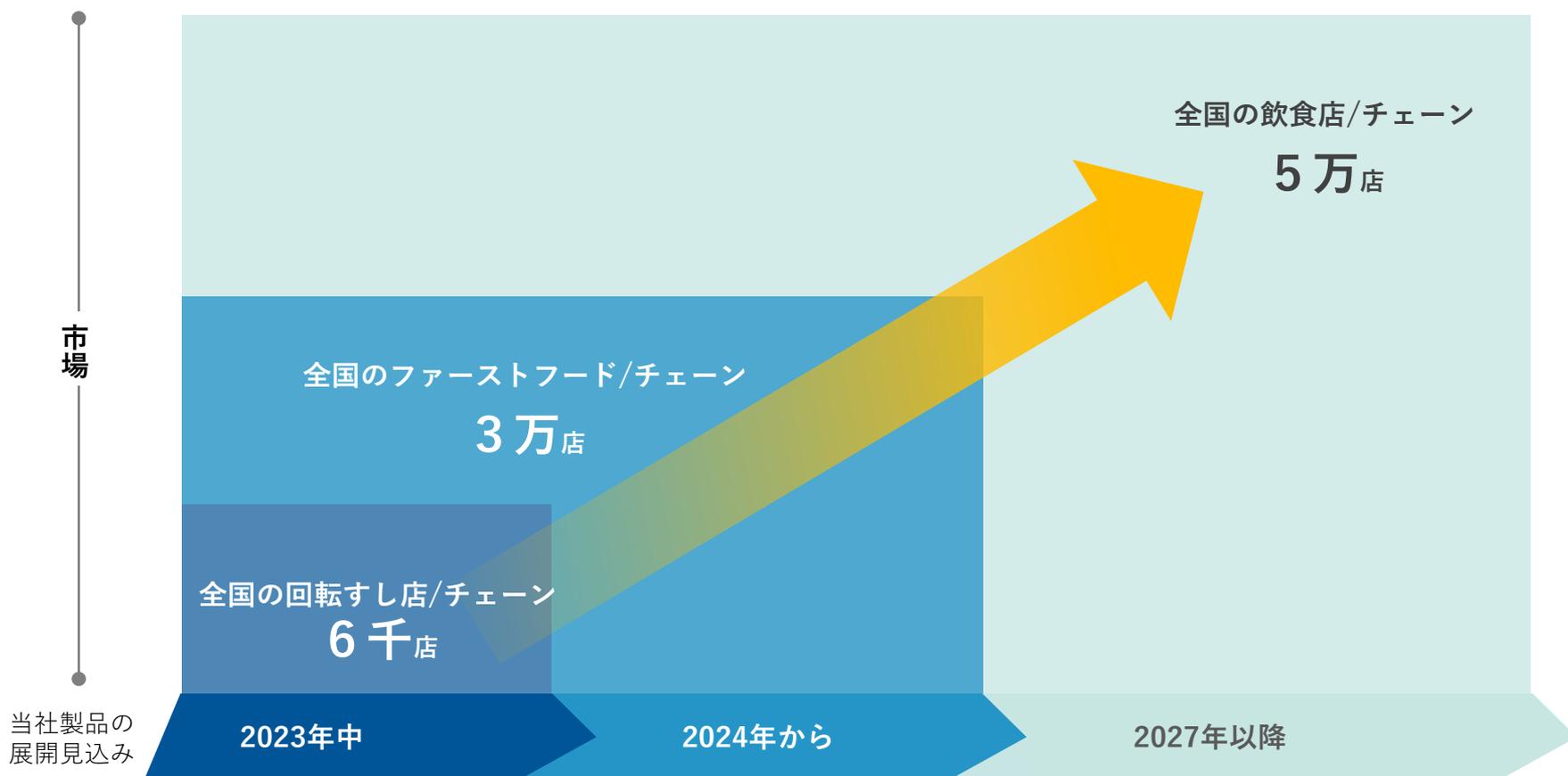
配達業務

など

戦略② ソリューションの提供強化／迷惑行為検知AIシステム

回転すし店舗向けシステムから展開し、飲食店全般も視野

迷惑行為検知AIシステムのターゲット市場規模



戦略③ 新領域への展開

デベロッパーやゼネコン等の新領域への対応を強化。当社グループにおける商品の企画開発を活かし、最適なセキュリティシステムを提供



ドローン警備



警備ロボット



顔認証



AIタクシー



クラウドサーバー

Safe Cityの実現



無人店舗



自動パトロール



ローカル5G



AIロボットシリーズ

戦略④ 商品倉庫兼実験・研究施設の建設

AI防犯システムの研究・実証実験と物流倉庫の中核拠点に

ディーズセキュリティ(株) (連結子会社) の 「商品倉庫兼実験・研究施設」の建設

計画概要

所在地	石川県金沢市
用途	商品倉庫及び商品組立て場、 実験及び研究棟、 ショールーム、本社 <ul style="list-style-type: none">企画開発後の商品を効率的な実証実験等の実施迅速な出荷体制の構築「安心・安全・便利な街」を疑似体験できる ショールームの設置
敷地面積	19,151.03㎡
稼働予定	2025年後半
総投資予定額	約30億円



「商品倉庫兼実験・研究施設」のイメージ図

— 未来の街に、さらなる安心・安全を
ダイワ通信のミッション



～ *Monitoring the Future* ～



ディスクロージャーポリシー

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。



Monitoring the Future

未来の街に、さらなる安心・安全を

ホームページのご案内

当社ホームページでは、
投資家情報、製品情報など
各種情報を随時更新しています。

